

2016 年度学院留学 研究成果概要

種 別： 学院留学（短期）

所属・食・氏名： 法学部・教授・鮎川 潤

研究課題： 犯罪問題の研究

留学期間： 2016 年 8 月 23 日～2017 年 3 月 3 日

留学先： アメリカ合衆国・デラウェア州・デラウェア大学

この度は、2016 年度秋学期にアメリカ合衆国のデラウェア大学へ学院短期留学の機会を与えていただき感謝いたします。おかげで、短いながらも充実した日々を過ごすことができ、その成果を教育と研究に生かすことができます。

その一環として、さっそく、奥付の日付では留学から帰国した直後の 3 月 30 日、実際に書店に配架されたのは留学終了直前である 3 月中旬に、留学中の研究成果の一部を盛り込んだ拙著『新しい視点で考える犯罪と刑事政策——国際的・比較文化的アプローチ』を出版することができました。この著書のサブタイトルである「国際的・比較文化的アプローチ」にも表れているように、留学し、そこでの生活を体験したり、自分の目で現地で実際に自分が研究する分野に関する事実を確認したりすることによって、初めて確かな情報として読者や学生に自信を持って提供できます。今回の留学によって知見を得たり深められた理解内容についても、この本の執筆および校正の機会に盛り込むことができましたが、さっそく帰国後の授業でも取り入れて講義をしたりゼミで解説をしたりすることができました。このように教育を充実させる機会が与えられたことに改めてお礼申し上げます。

留学によって獲得した確かな経験に基づく知識で、今後授業などにさっそく生かすことができる内容としては、矯正施設の参観があります。アメリカ合衆国の刑務所、拘置所、少年のための矯正施設などの刑事施設は専門職や研究者への開放度が高いのが特徴です。

例えば、参観した刑務所では、受刑者が介助犬を養成するプログラムがありましたが、試験に合格する一人前の介助犬を育成するためには、どれほど多く施設外へ受刑者とともに出かけて行って訓練させる必要があるのか、一般の民間の家庭と緊密な連携を取って共同で育成する必要があることなどが判明し、そのことは翻ってわが国において、盲導犬の育成というより高度の目標が設定されていることであろうかと思いますが、早い段階で刑務所内での飼育を終了して盲導犬候補として協会へ引き渡されていくプログラムとの比較が興味深く思われ、矯正施設での補助犬の育成プログラムに関する示唆が提供されるのではないかと考えられました。少年の拘置施設を訪問し、インテーク段階のシステム化された細かな医療的検査プログラムを参観することによって、一見したところでは——また一般に思われているところでは——荒っぽいというように見られるアメリカ合衆国の犯

罪少年に対する扱いとは異なる側面を少年の拘置施設が持っていることが判明しました。

デラウェア大学では社会学および刑事司法学科に受け入れてもらいましたが、その学科に所属する教員との意見交換や交流も非常に有意義でした。デラウェア大学社会学および刑事司法学科では研究室が不足気味なところ一室を与えてもらうことができ便益の提供に感謝しています。とりわけ隣室に、長年にわたって刑罰のうちでも死刑について関心を持って研究している教授がおられ、情報の提供を受けたり、意見を交換したり、議論をしたりすることによって、新たな知見を得ることができました。また、留学の受け入れ担当者となってくれたジョエル・ベスト教授には、家族が所有する車を留学期間中に貸してもらったり、さまざまな年中行事や家族の催しなどに招いていただいたりして、たんへんお世話になるとともに、頻繁に会って議論をする機会を得ることができ、非常に有意義な留学となりました。

デラウェア大学はちょうどニューヨークとワシントン DC の中間点に位置し、この 2 都市へはアメリカ合衆国では珍しくアムトラックの列車がきちんと走っているため、鉄道による移動が容易という利点がありました。残念ながら、当初予定していたニューヨークの国連本部へは行くことができませんでしたが、ワシントン DC には出かけ、犯罪研究とも関係のある最高裁判所や連邦議会を参観し、とりわけ後者では下院議会で審理や投票を傍聴することができたり、国立公文書館で資料の探索を行うことができたりしました。関心を持っている第 2 次世界大戦中とその前後の時期の資料についてはワシントン DC の中心部からは離れたメリーランド大学に近いところにあり、行き来に時間がかかりましたが、戦争犯罪と関係のある資料を閲覧したり、撮影したりすることができました。取得した、日本軍が第二次世界大戦中に行った戦争犯罪に該当すると考えられる行為に関する資料は、現在政治家による戦争犯罪や人道に対する犯罪や人権を侵害する行為に関心を持って研究していることから、とりわけ将来において同種の犯罪に関して政治家によるものに軍人によるものをも加えて研究するにあたって、私の研究において有益な役割を果たすと考えられます。

政治家の犯罪に関する研究としては、オランダ・ハーグにある国際刑事裁判所において、非常に高い地位を占めていた政治家が人道に対する犯罪を行ったとして起訴されている裁判の審理を傍聴したり、最高位の政治家がスイス・ジュネーブにある国連本部の図書館において、わが国の人権に関する条約への批准を含む対応状況、人権委員会にかなり早い時期に日本政府が提出した報告書に対する人権委員会が行った審査の様子、第 2 次世界大戦へと至る過程で、わが国が他国において他国民との同意の上で植民地の運営を行っている主張するのに対して、そのような理解へのヨーロッパ諸国の賛同が得られず、さまざまな問題点を指摘されるに至る国際連盟における審理をめぐる資料などを閲覧したり複写したりしましたが、これらの内容についても、本報告書の最初で述べた留学期間の最終段階で出版した著書の内容に盛り込んだり、今後有益に用いることができる資料として保持することとしました。

なお、デラウェア大学留学中には、アメリカ合衆国で開催されたアメリカ犯罪学会等の大会に参加して、最近の研究動向を把握したり、最新の犯罪捜査技術に関する知見を得るなど、研究上有意義な機会を持つことができました。さらに、他の州に設置された連邦高等裁判所において、取り調べにおいて本来なされるべき権利の告知が、知的障害を持つ少年に対してきちんとなされず、それゆえに捜査官の誘導尋問によって犯罪が告白されて有罪の判決が下ったとして異議が申し立てられた著名なケースの裁判についても傍聴することができました。

以上、例示を伴って述べてきた以外にも、犯罪、非行、逸脱行動とそれへの社会的対応に関する研究——その中には、犯罪への対応である刑罰が問題とされ、改善が提唱されるケースの研究も含まれます——の知見を増やすとともに、さらに近年関心を持って調査している政治家の犯罪、とりわけ政治家による人権侵害を伴う犯罪に対する国内にとどまらない国を超えた国際的な司法機関による対応についての研究を促進し、その内容を学生に教育的に還元することができる知見を拡充する機会を与えられたことに重ねてお礼申し上げます。